

第1章 生物多様性・生態系サービスの現状と課題

世界の現状と動向：損失の直接要因と背景にある間接要因、生態系の確保・回復と自然を活かした解決策による統合的解決、自然資本管理・生物多様性保全のビジネス化

我が国の現状と動向：4つの危機、根本要因としての非主流化

生物多様性国家戦略で取り組むべき課題：取り組むべき課題の観点（①世界目標への対応、②世界と日本のつながりの中での課題、③国内での課題）と、**具体的課題**

第2章 本戦略の目指す姿（2050年以降）

・2050年ビジョン 「自然と共生する社会」

『2050年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、賢明に利用され、生態系サービスが維持され、健全な地球が維持され、全ての人々にとって不可欠な利益がもたらされる』

第3章 2030年に向けた目標

・2030年ミッション 「ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現」

5つの基本戦略と40の個別目標を設定

15の**状態目標**（あるべき姿）・25の**行動目標**（なすべき行動）

第4章 本戦略を効果的に実施するための基盤・仕組み

- ・実施に向けた基本的考え方
- ・進捗状況の評価及び点検：国際枠組のレビューメカニズムへの対応
- ・多様な主体による取組の進捗状況の把握
- ・各主体に期待される役割と連携

ビジョンから関連施策まで一貫通貫

①生態系の健全性の回復

状態目標（3つ）

生態系の健全性の回復、種の絶滅リスクの低減、遺伝的多様性の維持

行動目標（6つ）

陸と海の30%以上保全、劣化地の30%以上再生、汚染削減・外来種防止、気候変動影響の最小化、希少種保護・状況改善、遺伝的多様性保全

②自然を活用した社会課題の解決

状態目標（3つ）

生態系サービスの向上、気候変動対策による生態系影響減、鳥獣被害の緩和

行動目標（5つ）

生態系機能の可視化、自然活用地域づくり、気候変動関連自然再生、再エネ導入時の配慮、鳥獣との軋轢緩和

③ネイチャーポジティブ経済の実現

状態目標（3つ）

ESG投融资の推進等、負の影響の低減等、持続可能な農林水産業

行動目標（4つ）

企業の情報開示、貢献技術・サービス支援、遺伝資源ABS、環境保全型農林水産業

④生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動（一人一人の行動変容）

状態目標（3つ）

自然重視の価値観形成、消費行動における配慮、保全活動への積極的な参加

行動目標（5つ）

環境教育の推進、ふれあい機会の提供等、自主的行動変容促進、消費行動・選択肢提示、地域保全再生活動促進

⑤生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進

状態目標（3つ）

情報基盤の整備等、生物多様性資金の確保、途上国支援能力構築等

行動目標（5つ）

学術研究・基礎調査等、データ活用の人材育成、地域戦略等策定支援、資源動員の強化、知見活かした国際協力

第1章 生態系の健全性の回復

国立公園やOECM等17施策
自然再生等35施策
汚染・外来種対策等46施策
気候変動影響評価等2施策
レッドリスト・希少種等9施策
遺伝資源収集・保全等6施策

第2章 自然を活用した社会課題の解決

ECO-DRR等8施策
地域循環共生圏等30施策
気候変動緩和策等11施策
バードストライク等4施策
鳥獣被害防止対策等15施策

第3章 ネイチャーポジティブ経済の実現

企業の情報開示等6施策
ビジネス取組支援等4施策
ABS指針の推進等3施策
有機農業の推進等29施策

第4章 生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動（一人一人の行動変容）

環境教育の推進等8施策
ふれあい機会提供等15施策
行動変容の促進等5施策
食ロス削減・食育等7施策
伝統文化配慮OECM等7施策

第5章 生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進

基礎調査等29施策
科学的情報の共有等22施策
地域戦略策定推進等5施策
資源動員の強化等6施策
生物多様性日本基金等38施策

第1部…戦略

第2部…行動計画

附属書

30by30
ロードマップ

生物多様性及び生態系サービスの
重要性の解説

自然共生社会における国土の
グランドデザイン